

第2回安曇野市環境審議会 会議概要

- | | | |
|-------|-----------|--|
| 1 | 会議名 | 第2回安曇野市環境審議会 |
| 2 | 日時 | 平成29年5月18日(木) 午前9時30分から午前11時35分まで |
| 3 | 会場 | 本庁舎 共用会議室 306 |
| 4 | 出席者 | 環境審議会委員 9名 |
| ----- | | |
| 5 | 市側出席者 | 市民生活部 宮澤部長
環境課 久保田課長、蓮井係長、藤森係長、土屋主査
廃棄物対策課 白澤課長、横川課長補佐 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | なし |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成29年5月 日 |

協議事項等

【進行表】

1. 開会
2. 委嘱書交付
3. 会長あいさつ
4. 審議・報告事項
 - (1) 新ごみ処理施設整備基本計画について
 - (2) 安曇野市環境基本計画年次報告書について
 - (3) 第2次安曇野市環境基本計画の策定について
 - (4) その他
5. 閉会

【議事】

- (1) 新ごみ処理施設整備基本計画について

< 廃棄物対策課から説明 >

< 質疑 >

(委員) 近くに断層が通っていますが、仕様書に耐震に関することは記載されていますか。震度7など、最大級の揺れを仮定しておられますか。

(廃棄物対策課) 震度6以上という仕様になっていたと思います。

(委員) 事業に参加できる資格をお持ちの会社は、何社程度ありますか。全国的にこうした施設の建設が進んでいると思いますが、手一杯ということは。

(廃棄物対策課) DBO による実績があるという仕様になっていますので、おそらく日本に5、6社だと思います。建設単価が上がっていますので、平成24、25年に発注した同様の施設よりは割高になることは明らかですが、複数社から質問があることから、何らかの業者から提案があるものと思われます。

(委員) 長野市も同方式ですか。

(廃棄物対策課) 長野広域も現在策定中です。

(委員) 外来種対策についてですが、アレチウリなど、市民が集めたものがこの施設に集積され、焼却処理されることになると思います。ごみ処理施設ということもあり、車が市の全域を走るため、敷地内に外来種があると市の全域にひろげることになります。建設、その後のメンテナンスを委託する際に、仕様書にきちんと記載しないとけない。外来種がひろがった原因の特定は難しいことですが、少なくともアレチウリなどが残る敷地になることは好ましくない。また、参考に敷地面積はどのくらいか。

(廃棄物対策課) 本日は敷地面積が分かる資料を持ち合わせておりませんが、建設予定地の面積は6,000 m²程度だと思います。

(会長) DBO 方式は、長野県内でけっこう導入されているようですが、これによるメリットは十分理解しましたが、他の導入市町村でのトラブルなどは聞いたことがありますか。

(廃棄物対策課) トラブルが発生したケースは聞いていません。DBO よって、必ず SPC という特別管理会社を設立することが条件となっています。この SPC にすべて管理委託するという考え方です。発電に関しても、施設の電力をすべてまかない、余剰を売電しますので、発電効率が上がるほど SPC の利益が増えることになります。

(会長) 時間がきましたので、この件は以上とします。

(2) 安曇野市環境基本計画年次報告書について

<環境課から説明>

<質疑>

(委員) 重点プロジェクトの一覧を見ますと、都市計画の関係、緑のこと、まったく絡んでないことが分かります。環境課が直接実施するもの、里山再生計画など他部署が実施されるものがありますが、推進体制の中にそれぞれの部署の名称を入れ、旗印を掲げるかたちになると、市民にはこの部署が研究しているのが分かる。簡略化してもよいと思いますが、推進体制の中にそれぞれの部門・部署の施策がこうだということを明示した方がよいと思います。

(会長) どの部署で何をするかということを明確にした方が市民に分かりやすく、実施していることが理解しやすいというご意見でしょうか。

(環境課) 環境基本計画に基づき、平成 26～30 年度の計画をたて進めています。当初に都市計画が入ってなかったこともあり、重点プロジェクトには入っておりません。里山再生計画、緑の基本計画など、環境と関連する計画が増えている現状がありますので、庁内での調整はますます重要になるものと考えております。第2次環境基本計画の策定にあたっては、部長級、課長級、係長級の会議など三段階にわたる協力体制をしいておりますので、もう少し明確なかたちにしたいと思います。

(委員) 菜種油を学校給食に提供しているJAあづみのあんしんネットワークの「菜の花プロジェクト」ように市域として誇らしい活動がある。他にも市民が実施している環境の取組は多い。そのような市民団体の活動も評価に該当する仕組みにさせていただけるとよいと思う。

(委員) 中山間地域等直接支払は、けっこうな金額ですが、具体的には何に使われているか。また、主な場所はどこになりますか。

(環境課) 正確にお答えできませんので、また、資料をご提示させていただきます。

(委員) 松枯れ予防対策の関係で、更新伐跡地の検討とありますが、跡地は現在どのような状況になっていますか。

(環境課) 詳細になりますと、担当課でないと分かりことがありますので、ご質問をお聞きし、次回説明させていただきます。本日は分かる範囲でご説明させていただきます。

(委員) 松枯れ対策は、すべて A 評価となっていますが、事業実施の有無で評価されている。本来は、松くい虫の被害を防止できたかどうかという観点で検証しないといけない。薬剤散布や伐倒駆除が減った方が、被害が少なかったと言えるので、評価方法を検討してもらった方がよいと思う。

(会長) これ以上お金をかけても無駄というご意見もある。予算を使っただけの効果がでたか分からない。計画どおりのことを実施しただけである。

(環境課) 現状では、成果を体積で示しておりますが、評価方法を検討させていただきたい。

(委員) 昨年 10 月にオープンしたしゃくなげの湯は、薪ボイラーを使用することが売りでしたが、薪の使用量はどのくらいでしょうか。また、天平の森でも随分前から薪ボイラーを使用していますが、松は火力が強く、痛むのではと心配しています。古いものも含め、ボイラーの状態はどうでしょうか。

(環境課) 調べて次回報告いたします。

(委員) 本庁舎への業務集約により職員の外出が減り、ガソリンの使用量が減ったとありますが、市民からすると遠方から来庁しないと用が足りず、ガソリン代がかさむのではないかと。こういった見方、考え方もしてもらえるとよい。

(部長) いろいろな見方があると思いますが、今まで分庁方式で 1 か所では解決できないものが、本庁舎で一度に済むということもあり、両面が考えられますので、そういった面も含め精査してまいります。

(委員) 昨年の環境フェアで、景観という観点から安曇野の魅力について考える講演会があり、講師の先生がおっしゃられた「観光スポット」というのに、皆さんだいぶ納得された様子でお帰りになったと思いますが、その後講演の中身を実際に検討しているのでしょうか。

(環境課) 好評だったことはお伺いしております。せっかくのご講演ですので、そこで終わりではなく、当然それらを取り入れたものが必要だと思いますので、確認させていただきたい。

(委員) 「外来生物を調べよう」は評価 80 点ということで、さらにハードルを上げて取り組む必要があると思います。例えば三角島では、アレチウリの駆除など、いろいろな取り組みがなされていますが、どこかに指定地域をつくり、希少な生物や景観の保全を行っていく、そういったかたちの活動になっていくことも考えられると思います。また、焼却場の関係でアレチウリの関係を発言しましたが、特定外来生物は、本来は移動させることができず、その場で処理する必要があると思います。市民参加の駆除活動に対応するとすると無理が生じると思いますので、外来生物に関しては、この地域の域内で処理できる裏付けをつくっていかなければならないと思います。

(会長) 袋に入れて運び焼却するのではなく、その場で処理しなければならないということでしょうか。

(環境課) 法律の規定があり、移動させてはいけません。各区で実施しているアレチウリの駆除でも、その場に置いていただくようお願いしている。外来生物に関しては、積極的に実施させていただいており、参加人数も増えています。現状を維持しつつ駆除にあたっていきたいと考えております。また、指定地域についてですが、三角島で昨年オオカワジシャの駆除を実施しましたが、広報で募集してもなかなか参加者を得られない状況にあります。

(委員) 国・県が管理する河川敷でも外来生物が繁茂する箇所は多い。我々で駆除するのは無理なので、国・県に働きかけていただきたい。

(環境課) 最近になって予算をかけて実施させていただいておりますが、追い付かない状況です。県の予算も限られますので、拡大は厳しい状況ですが、引き続き要請していきます。

(3) 第 2 次安曇野市環境基本計画の策定について

(会長) 第 2 次の計画は、資料 3-5 の第 2 次計画(案)の項目に集約していくということでしょうか。

(環境課)中身が細かい、重複する箇所などを整理して、体系的にシンプルにしていく方向で検討しています。また、4つの基本目標に変わりはありません。

(委員)全体を通して元号が使われていますが、何年前かなど、簡単に計算できない。混乱をさけるため、西暦を併記していただきたい。また、2ページに「平成 26 年と昭和 51 年を比較して・・・」とありますが、円グラフでは比較できない。比較であれば、積み重ね棒グラフなどにすると、文章と一致する。

(委員)6ページに、地下水の年齢がおよそ 10～15 年とありますが、本当にこの数字でよろしいのでしょうか。200m、300mという深い所が、本当に 10～15 年で入れ替わるものなのでしょうか。

(環境課)6ページについては、表現をもう一度検討します。

(委員)スケジュールの表中に、審議会での意見などをフィードバックする矢印がないようですが。

(環境課)矢印は審議の大まかな流れを示したものになります。審議会でのご意見は、当然反映させていただきます。

(会長)市民アンケートで、公共交通はAゾーンに属し、重要度が高く満足度が低いとありますが、第2次の取組項目に見当たらない。A～Dゾーンに分けて整理した以上、重要度が高く満足度が低いものは課題として入れるべきだと思います。また、公共交通に関しては、地区ごとに考え方、見方が違ってくるため、地区ごとの利用状況がどうかということをベースにして計画を策定していただきたい。

(環境課)「公共交通」という言葉は直接入っていませんが、「まちなみ」の分類に入りますので、取組としては、もちろん施策の中に含まれております。

(会長)農業従事者に占める 65 歳以上の割合が、平成 27 年度で 72.8%とありますが、この数字は本当でしょうか。

(環境課)おそらくよろしいと思いますが、再度確認します。また、数値は最新のデータに更新をかけていくなかで再度確認、修正していきます。

(会長)平成 26 年度の放獣 25 件、捕殺 53 件とありますが、クマだけの数でしょうか。

(環境課)ツキノワグマについての数字になります。

(会長)公園の面積は、国営公園を除くと、7.9 m²/人とありますが、全国と比べて多い方でしょうか、少ない方でしょうか。考え方によっては、平地にもっと公園を作るべきだということになります。

(環境課)全国的な傾向については、手元に資料がございませんので、確認して報告いたします。

(会長)常念山脈という表現は一般的でしょうか。公的に使える言葉ですか。

(委員)レッドデータの時に使用したことがあります。

(委員)資料3-5の第2次計画(案)の中に、生物多様性基本法に関して*印で記されています。国や県の施策であっても、関連した立脚点があるものはたくさんある。例えば、安曇野市は、すべての認定子ども園が、県の施策である「信州自然型保育」の認定を受け、オピニオンリーダーのように引っ張っていただいています。また、平成31年にこの地域で開催される全国都市緑化フェアは、安曇野という地域がこういった取組に積極的であることをPRする場になります。「信州自然型保育」や都市緑化フェアなど、県の施策でも、立脚点になるものを*印で基本目標に書き入れ、それぞれの項目にさらに取り組んでいくと、国や県、市の各部署も連携していくのではないかと、かたちになっていくのではないかと思いますので、そういった観点を込めてこの計画をスタートした方が良いのではないかと。資料としても、立脚点となる県の施策で市と深い関係があるものは記載した方がよいと思います。

(委員)資料3-3によりますと、「廃棄物の発生抑制をする(リデュース)」への市民の取組が、平成 18 年度と比べ平成 28 年度は大きく減っています。第2次計画の策定にあたり「ごみを少なくする」の項

目が新設されていますので、どうして減少したのか分析をお願いします。

(会 長) 事業系のごみが増えている。分別や水分を減らすなどの考え方を大々的にPRしていくとよい。「日本一ごみが減った」とか、大きなお題目をつくったらいかがでしょうか。

(環境課) 非常に重要なお話ですので、計画の方で何かしらアピールしていきたい。

(4) その他

<安曇野市合葬式墳墓建設計画について説明>

<質疑>

(会 長) 費用はどうなりますか。

(環境課) 管理料は不要です。使用料は決定していませんが、他市町村の例ですと、個別埋葬室に埋葬し数十年後に共同埋葬室に移す場合で15万円程度。直接、共同埋葬室に埋葬する場合は4～5万円になるかと思います。また、管理は市が行い、清掃などは必要ありません。

<安曇野市水環境行動計画アクションプランについて説明>

<質疑>

(会 長) 転作が嫌で放ってある土地に水をかけるのは駄目なのですか。

(環境課) 国交省に確認しないと定かではありませんが、おそらく駄目です。基本的に作物をつくるのが前提です。農業施策に頼るだけでは難しいため、農業をやっていない方でもできるような地下水の取組があればと考えております。

(委 員) マコモダケやハスを生産することも考えられます。また、レンゲ畑であれば、ミツバチを使って蜂蜜をとれば、生産というかたちになる。そういったモデルをつくり、国や土地改良区の理解を得て、市民の総意を土地改良区などに伝えていけばハードルをクリアしていけるのではないのでしょうか。

(会 長) その他、ご提案がありましたら、次回までをお願いします。以上で本日は終了したいと思います。大変ご苦勞様でした。

閉 会